富山経済同友会

会報
2025.3月
No.323

長崎経済同友会との交流（２月19日）

CONTENTS

● 新年幹事会 …… 2
● 経済５団体「新春互礼会」…… 3
● １月会員定例会 …… 4
●【講演録】１月会員定例会：山崎 光悦 氏 … 4
● 第６回企画委員会・第７回委員長連絡会議… 9
● 第８回交流委員会 ……10
● 第５回人財活躍委員会 ……10
● 第６回人財活躍委員会 ……11
●（トピックス）とやま企業見学バスツアー…11
● 第８回企業経営委員会 ……12
● 第７回地域創生委員会 ……13
● 第10回文化スポーツ委員会 ……13
● 同友会の日（富山グラウジーズ）……14
● 同友会の日 文化 ver.（富山ジュニアオーケストラ）…14
● スケッチオーデション Day５－６ ……15
●（トピックス）長崎経済同友会との交流……16
● 課外授業講師派遣 ……17
● リレーエッセイ⑫④（太田 俊也 氏）……18
● 活動報告 ……19
● 会員の入退会 ……21
● 今後の予定 ……23
●（トピックス）県議会議長からの要請……23
● わが青春の１枚（牧田 和樹 氏）……24

地域発展のため積極的な活動を

― 新年幹事会 ―

１月15日㈬、富山電気ビルデイングにおいて新年幹事会を開催し、65名が新年の門出を祝った。最初の幹事会において会員の入退会を決議し、事務局から活動報告と今後の予定について報告がなされた。

新田知事

その後、新田八朗富山県知事を迎えて昼食会を開催。麦野代表幹事、牧田代表幹事より年頭所感が述べられ、その後新田知事から来賓のご挨拶をいただいた。

中尾特別顧問が乾杯の音頭をとり、歓談。最後に桶屋副代表幹事が挨拶し、閉会した。

中尾特別顧問

桶屋副代表幹事

◆再生と変化の一年に

麦野代表幹事

昨年は元日の能登半島地震から始まり、夏は大変な猛暑に見舞われ、線状降水帯がいたるところで発生するなど、自然災害に振り回された１年でありました。海外に目を向けると、終わりの見えないウクライナ戦争やイスラエルのガザ侵攻に加え、アメリカ、イギリス、フランス、インド、韓国など、日本を含め世界中が選挙のビッグイヤーでした。

日本経済は緩やかではありますが回復傾向を続け、年末には日経平均が1989年のバブル期の最高値を35年ぶりに更新して39,894円となりました。今年の見通しは、景気は上向き、株高・円高・金利高というのが大方の見方です。

ユーラシア・グループのイアン・ブレナー氏は「2025年世界の10大リスク」において、１番目に“深まるＧゼロ世界の混迷”を挙げ、その中で「国連などの国際機関の影響力が低下し、ならず者国家が勢いづき、世界大戦のリスクが高まっている」といった警鐘を鳴らしています。我々の経営環境は経済的要因のみならず、地政学的要因や気象学的要因に加え、昨今ではコロナなどの疫学的要因と、これらが多方面で多様に、そして不確実に襲ってくるリスクがあると考えていかなければなりません。

そして、何と言っても大きな流れは人口減少です。「人手不足、専門人材不足、後継者不足」の３つに加え、今年は人件費の高騰が目先に襲ってきます。不透明な時こそ、今一度、企業の目的「自分たちは何を目指すのか」を経営者だけでなく従業員とともに共有し、現場を大事にして強化することは大事なことであります。そのためには、様々な分野の人の話に耳を傾け、現場から上がってくる創意工夫を見過ごさないことも経営者として大切です。また、DX、いわゆるITを駆使して一歩だけでも先んじることが必要ではないかと思います。

今年のテーマは「再生と変化」と、新年の取材で答えました。現状にとどまらない意識と行動が必要となります。デフレマインドの払拭、閉塞感を打破する、そんな１年にしたいと思います。我々富山経済同友会は、自由な立場で皆とディスカッションをして、地域発展のために行動を起こしていくという団体です。本年も皆さんの積極的な参加をいただき、地域のために貢献したいと思っております。

◆チャレンジングに活動しよう

牧田代表幹事

先日、富山青年会議所の新春懇談会に出席し、久しぶりにJCの雰囲気を感じて思ったことがあります。それは、24年前に富山経済同友会に入れていただいてから、いろいろと活動させていただきましたが、当時の代表幹事であった中尾哲雄さんより委員長を何度か続けて拝命した際に、次から次へとミッションが下されました。その時思ったのは、JCと同じ感覚だな、ということでした。まさに、東京の経済同友会が戦後、アメリカのJCの仕組みを参考にして作られ、会員資格は個人の立場で、企業の大小や業種、業態に関係なく、自由闊達に意見を述べ合うということをベースにスタートしたわけであります。そのようなことから、JCと共通する部分がたくさんあるのかなと思っていたのですが、それらに加え、私は「チャレンジングなことができる」というのが、経済同友会の一番大きな特徴なのではないかと思っています。

「できることをやる」というのが、現在の様々な経済団体の現状ではないかと思います。しかし、そうではなく「できないかもしれないけれど、挑戦してみよう」、「みんなでちょっと何かやってみよう」ということをできるのが富山経済同友会だろうと思います。実際、中尾さんが代表幹事をされていた時に、全国セミナーを2回も誘致されました。かなり大変ではありましたが、あの時の充実感というのは今も忘れられないでいます。

これからの富山経済同友会、皆さんと共に、もう少しチャレンジングに活動を続けていきたい、取り組んでいきたいと思っております。富山経済同友会は、誰のために、何のために存在しているのかを、しっかりと認識しながら活動していきたいと思います。どうか1年よろしくお願いいたします。

地域経済の発展に向けて団結を誓う

― 経済5団体が「新春互礼会」 ―

富山県内の経済5団体による新春互礼会が1月6日㈪、ANAクラウンプラザホテル富山で開催され、各団体幹部や企業経営者、市町村長ら約430名が集まり、当会からは38名が出席した。

まず、富山県中小企業団体中央会の廣瀬宏一会長が開会を宣言。続いて、山下清胤（一社）富山県経営者協会長が、経済の力強い成長に向けて新年の挨拶を行った。

引き続き、来賓を代表して、新田八朗富山県知事が「県内企業の持続可能な発展に向け、企業の設備投資、生産性向上、賃上げがスムーズに進むように取り組んでいきたい」と祝辞が述べられた。

その後、5団体の会長・代表幹事、来賓らが登壇し、当会の牧田和樹代表幹事の「原理原則に立ち返り一丸となって頑張ろう」との掛け声により、5年ぶりに鏡開きが盛大に行われた。

鏡開き　牧田代表幹事

そして、宮本光明富山県商工会連合会長の乾杯で和やかに歓談。富山県商工会議所連合会の庵栄伸会長の三本締めで、盛会のうちに終了した。

世界に冠たる『創造的復興の中核拠点』を目指して
山崎光悦氏 講演　― １月会員定例会 ―

１月会員定例会を１月27日㈪、オークスカナルパークホテル富山で開催。福島国際研究教育機構（F-REI）理事長の山崎光悦氏が「福島国際研究教育機構の創造的復興への挑戦」と題し講演を行った。今回は地域創生委員会（池田治郎委員長）が主管し、会員約100名が参加した。

山崎氏は、まず、金沢大学長時代に取り組んだ大学改革について、そして、日本の大学改革の最新動向について、自身の経歴とともに言及。金沢大学での科学技術イノベーション創成に向けた研究面・教育面での改革事例や、現在携わる地域の中核大学や特色ある研究大学の強化促進事業等について紹介した。

そのうえで、現在、自身が理事長に就く福島国際研究教育機構について説明。福島をはじめとする東北の復興実現、ひいては、日本の科学技術力・産業競争力強化の牽引による経済成長への貢献を掲げる同機構の、発足の経緯や定める計画・ビジョン等を紹介するとともに、取り組む５つの研究分野の詳細と同機構が併せ持つ「研究開発」「産業化」「人材育成」「司令塔」といった４つの機能について解説した。

「復興を実現しその先の未来を切り拓くためにはイノベーションが必要であり、そのために、世界最高水準の研究開発に取り組める環境を整える」。山崎氏の明朗な語りからは、「世界に冠たる『創造的復興の中核拠点』を目指す」との熱い想いと強いリーダーシップが感じられた。

能登半島地震から１年、被災地復興について多くの示唆を得る貴重な機会となり、講演後には活発な質疑応答がなされた。

１月会員定例会（2025.1.27）講演録

「福島国際研究教育機構の創造的復興への挑戦」

福島国際研究教育機構　理事長　山崎 光悦　氏

（プロフィール）
富山県出身。1976年、金沢大学大学院工学研究科修士課程修了。1982年、工学博士（大阪大学）。材料力学や設計工学の研究者として、1994年に金沢大学工学部教授。理事・副学長を経て、2014年に金沢大学長就任。2022年、金沢大学特別顧問、復興庁参与。2023年から福島国際研究教育機構（F-REI）理事長（現任）。

◆　大学改革と世界

福島国際研究教育機構「F-REI」（エフレイ）の理事長にとお声がけをいただく以前、金沢大学の学長の職にありました。F-REIの話に入る前に、私が学長時代に行った金沢大学の改革について、関連して、日本の大学改革の最新動

向について、触れたいと思います。

まずは、金沢大学での研究面の改革について。平成29年に、文部科学省の「WPI（世界トップレベル研究拠点プログラム）」の採択を受け、ナノ生命科学研究所を創設しました。WPIは、優れた研究環境と極めて高い研究水準を誇る研究拠点の形成を目指すもので、ナノ生命科学研究所は、研究者のうち４割弱（当時）が外国籍で公用語も英語と国際的な研究環境の下、生命科学における「未踏ナノ領域」の開拓など世界最高水準の研究を行う拠点です。これ以外にも、３つほど先鋭分野の研究拠点をつくりました。

もう１つ、教育面の改革も行いました。日本では大体の高校が２年生時に文系と理系に分かれ、大学の学部もそうした格好になっていますが、イノベーションが起こせない要因の１つには、このことがあると感じていました。ですから、起業を一番の目的に、約60人を集めた「文理融合の先導学類」を創設し、イノベーションを先導する人材の育成機能強化を図りました。その第１期生が今まさに世に出るということで、彼らの今後に非常に期待をしているところです。今や多くの大学がこうしたアントレプレナーシップ教育を始めつつあります。

では、日本の大学改革の最新動向は、ということで、私も関わる２つの取組みをご紹介します。１つは「国際卓越研究大学制度」です。世界ランキングで日本の大学が低迷する中、政府は10兆円に上るファンドを設け、５つの大学を選んで研究を世界トップレベルにするプログラムに着手しました。昨年、東北大学をその第１号に選定しています。それと並行した取組みが、

「J-PEAKS（地域中核・特色ある研究大学強化促進事業）」です。地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学について、国が支える形で、他大学よりも一歩飛び出た研究力の強化が図られることになっています。25大学を公募し、昨年度に12大学、先週には第２陣の13大学を選定しました。

さて、そうした大学改革の背景にある世界の動きについてです。コロナ禍以前の話で恐縮ですが、日米企業の時価総額を比較しますと、まずGAFAM５社では計280兆円に上りました。世界ランキング100位入りの日本企業はトヨタだけ。1,000位内に広げると約90社に増えたのですが、合計しても200兆円で、到底GAFAMに及びません。一方で、中国の台頭には目を見張るものがあります。

日本の重要な敗因は、「ジャパン・アズ・ナンバーワン（『日本のものづくり』は世界最高だ）」との“思い込み”にあると言えるでしょう。日本は、確かに、性能や効率を最大にする要素技術の追求には熱心で得意としている。しかし、それをシステム化する点で世界に追いつけていません。製品の要件としては、ハード（ものづくり）だけではなく、ソフトやサービス、コトを起こす力などのプラスアルファが必要なのです。

そんな思いから、シリコンバレーによく通いましたが、VRや自動運転車、画像認識チップなど、先端技術の元をたどると、イスラエルに至りました。GAFAMにしろ、国外で研究開発拠点を最初につくったのはイスラエルです。現地に足を運んでみると、そうした技術発展の背景には、様々な国情に起因する経済成長の必要性が強くあったのだとわかりました。

そして今、物理的、デジタル的、あるいは生物学的なメガトレンドを背景に、世の中は大きく変わる真っただ中にあります。例えば研究開

発の現場でも、AIの力を借りて、実験そのものを自動化するだけでなく、そのデータをオープンに活用しようという動きが世界的に加速しています。一定のところまではオープンイノベーションで、その先の特色あるところは各メーカーで開発を進める。これにより、開発スピードは目まぐるしく上がっています。ところが、残念ながら日本の企業では自前主義がはびこっており、なかなか外国の開発スピードに追いつけていないと、個人的には感じています。

◆　創造的復興の中核拠点設立へ

福島第一原子力発電所（1F）の発災で、高濃度の放射性物質を含む空気が流れた周辺地域では特にひどい汚染を受けました。10年後のデータを見ますと、濃度はかなり薄くなりましたが、残念ながらいまだに戻れない、除染が終わらない地域が広範囲に残ります。約1年前のデータですが、帰還率は、研究所建設予定地の浪江町で約14%、1Fがある大熊町で6%、双葉町に至っては1.8%と一層厳しい状況です。

帰還困難区域に指定され、避難を強いられた地域の人たちは、その地で就職先を見つけたり、子育てをしたりしています。「鶏が先か卵が先か」ではありませんが、働く場所がないから戻れないし、戻らないからそこに新しい産業が起きないのです。

そんな中で、政府や復興庁は研究機関をつくる発想に至ります。福島イノベーション・コースト構想で浜通り地域の新たな産業基盤の構築を目指す中、教育研究拠点づくりから議論が始まり、国会で“国際研究教育機構”とすることが固まって、総理から理事長予定者としての辞令をいただきました。そして、移住・定住の促進とともに、“創造的復興の中核拠点”として「福島国際研究教育機構（F-REI）」の設立が決まりました。

F-REIには、「研究開発」「産業化」「人材育成」及び「司令塔」の4つの機能があります。大学とは異なり、福島ならではの研究を進めることがミッションです。テーマは5つ、「ロボット（ドローン含む）」「農林水産業」「エネルギー（再生可能エネルギー）」「放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用」、そして「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」です。

令和5年の4月1日、当時の岸田総理、渡辺復興大臣ら出席の下、仮事務所の開所式が行われ、大勢の皆さんにお祝いいただきました。

施設の予定地は浪江町で、常磐線のJR浪江駅西側にある約17ヘクタールの広大な土地です。現在、同じく駅西側近くの町立ふれあい福祉センター・ふれあい交流センター内に機構の仮事務所があるのですが、常勤だけで約100人の大所帯です。研究場所には各地の大学の一角や休校施設などもお借りしています。

体制としては、理事長の下に理事、執行役が各2名。監事が2名。そして、研究開発部門と運営管理部門があります。また、特別顧問は2名、アドバイザーは国内と国際で各4名、それぞれお願いしております。

◆　F-REIの4機能

1．研究開発

中期計画期間が7年、その第1期計画の2年がもうすぐ終わります。初年度に、募集した課題の中から55を選び抜いて研究を始めていただいていますが、研究成果をあげることはもちろ

KOUENROKU

ん、後々F-REIに研究者として移籍いただける若手の育成もお願いしています。

研究費は7年間で1,000億円強。5分野で50ユニット（研究グループ）＝平均で各分野10ユニットですから、研究者で約500人規模、それを支える事務職が約250人規模です。

我々のミッションは、放射線科学の利活用や放射能汚染環境の動態計測をベースに置きながら、ロボット・ドローン技術や次世代農林漁業、クリーンエネルギーなど、世界水準の研究拠点として最先端研究を推進し、浜通りひいては東北の産業創生を牽引することです。決して容易いことではございません。

ですから、F-REIでは、研究開発を戦略的に推進するため、各分野のオーソリティーとされる先生方を研究マネジャーとして、分野長、副分野長という形でご活躍いただくことにしています。また、これまでに計8ユニットのリーダーも決まり、各分野で日本を代表する研究者に就任いただいております。

研究5分野

【ロボット】　日本では、約20年前に登場したホンダの「ASIMO」以来、2足歩行のロボットの研究は、ほぼなされていません。工場で活躍する自動組立てなどのロボットハンドは相変わらず日本は最先端にありますが、しかし、海外を見ると、4足・2足歩行で人間が近寄れない場所での計測や処理など様々な機能を果たす、そのようなロボットが開発されています。中でも、ボストン・ダイナミクス社が開発した4足歩行の「Spot」は最先端にあり、また、廉価ながら同じような機能を持つ中国製の物も出回り始めました。

F-REIにおけるこの分野の目的も、まさに、過酷環境下で使えるドローンを含めたロボット技術の研究開発です。背景には、廃炉に向けた燃料デブリの分析から始まる放射性物質の処理、また、大地震をはじめ大雨や洪水、火事など災害時の救助活動、それらが依然として難航している現状があります。

例えば、廃炉内では数日でCCDカメラの電子回路が故障するのですが、パワーデバイスとしてダイヤモンドデバイスを最終目標に置き、耐放射線性に優れた要素技術の開発を目指します。一方で、世界の過酷環境下における先端ロボット・ドローン技術の吸い寄せを意図して、今年10月にはロボットの世界大会としてWRS（World Robot Summit）エフレイ過酷環境チャレンジを福島ロボットテストフィールド（RTF）で開催します。

【農林水産業】　福島の浜通りは、富山平野以上の穀倉地帯で、除染を終えて高規格化されたほ場は3～4町が普通です。目的の1つは、そうした広い農地で行う耕起や施肥、除草など一連の大変な作業の完全自動化です。要は、数台のトラクターやドローンを、自宅に居ながらにして遠隔コントロールできるようにしたいのです。

もう1つは多収益化です。福島が日本有数の生産量を誇る桃や梨など果樹の新たな栽培・生産技術の開発、そして、土壌に含まれ植物の栄養素となる鉱物の追究、そしてICT利用による鳥獣被害対策などもあります。

【エネルギー】　これも大きくは2つあり、1つは、CO_2の削減を図るネガティブエミッションの実現、もう1つは、水素を中心にした再

生可能エネルギーの活用です。

例えばグリーン水素です。太陽電池パネルで起こした電気を使って水電解を行い、発生した水素を、燃料として、あるいは再び電気に換えて使用する、そのプラントの小規模化を実現したいと考えています。

そして、ブルーカーボン。海藻類に二酸化炭素を吸収させ、海底で長年にわたり貯留する。その海藻類の大量生産に対応した品種や養殖生産技術の開発なども行います。

【放射線科学・創薬医療】　１つは農業で、RI（放射性同位元素）利用による品質・生産性向上、もう１つは医療で、診断・治療薬の研究開発という２分野があります。

【原子力災害データ・知見の集積・発信】　セシウム濃度の測定とともに、新しい文化やまちの検討とその基礎を支える大きくは３つのグループで、レジリエントで人々が共生できる福島・浜通りづくりを研究します。

データベースをつくり、世界に発信することも大事なミッションです。帰還困難時にはセシウムが予想どおりの減衰をたどっていたのですが、人が介在するといろんなことが起きます。人間活動が放射性物質の動態にどう影響するかなどの評価についても研究します。

F-REI では、これら５分野の連携も図りながら、福島の課題解決、日本の産業競争力強化に貢献していきます。

２．人材育成

残る３機能のうち、人材育成機能についてです。F-REI では、地域の子供たちや学生を対象に、次の世代を育てる様々な取組みを実施しています。

福島県内の大学や高専、高校に出かけ、科学技術の大切さや面白さなどを伝えるセミナーや出前授業を開催したり、理工系の女子比率を上げるためにワークショップを開き「リケジョ」づくりにも傾注、また、児童向けにドローンのプログラミング教室や、夏休みには親子でのワクワク科学実験も開催したりしています。

さらには、大学と連携協力のうえ「連携大学院（連携講座）」を設置し、大学院生の教育や研究指導などの人材育成を進める取組みも行っています。約１年前の東北大学を皮切りに、今後、近隣のみならず様々な大学へと、この連携大学院制度を拡充していく予定です。

３．産業化

次に、産業化機能について。福島をはじめ東北の復興に結び付けるために、研究成果をいかに産業化につなげていくか、これが我々の一丁目一番地です。広く地域の自治体や企業などとの連携協力を進めるとともに、多様なシーズ・ニーズを把握するため市町村座談会を開催するなどの取組みを行っています。昨年度には、浜通りの15市町村、今年度には中通りや会津などを回りながら、それぞれの地域にある産業をじかに確かめ、困り事や特徴も調査しています。

４．司令塔

最後に、司令塔機能です。関係機関の連携を推進する役割を担っています。１つには、F-REI 理事長を議長とする「新産業創出等研究開発協議会」を開催しています。既存施設や大学などの関係セクターの方々にお集まりいた

KOUENROKU

だき、ご意見を頂戴して次の施策やアクションプランに反映させています。

そして、研究の加速や総合調整を図るため、一部既存施設などの統合・集約も進めます。例えば、南相馬市にある福島ロボットテストフィールド（RTF）は、広大な敷地に多様な環境が再現された、ロボットの性能評価や操縦訓練などができる開発実証拠点ですが、この４月から私どもの機構に統合することになっています。

強いリーダーシップのもと、研究開発、産業化、人材育成を一体的に推進することで、広く国内外にその効果を波及させていきます。

◆　浜通りを「常盤カリフォルニア」に

“創造的復興”の最終目標は、福島・浜通りにみんなが住めるまちをつくることです。アメリカンドリームは、巨大な財をなし、老後はカリフォルニアに住むことだといいます。浜通りが「常盤カリフォルニア」と呼ばれ、日本中のみんなが浜通りに住みたいと夢見るまちとなる、それが私の理想です。

次年度の委員会再編の方向性について

― 第６回企画委員会・第７回委員長連絡会議 ―

１月30日㈭、第６回企画委員会（大橋聡司委員長）が第７回委員長連絡会議と合同で事務局会議室において開催され、企画委員６名、委員長及び副委員長６名の12名が参加した。

まず、10月の委員長連絡会議で出された委員会運営の課題等に対し、委員会編成や運営の両面から対応する「2025年度以降の委員会編成の方向性」について説明がなされた。

大橋委員長

具体的には、「親委員会と小委員会との違いが分からない」、「大規模な委員会の運営が難しい」等の課題に、「小委員会を廃止し委員会数を増やす」、「グループディスカッション方式等委員の意見を取り上げる委員会運営を工夫する」、「課題に対して臨機応変に提言をまとめる

委員会を設ける」などの見直し案が示され、参加者一同の賛同を得て、次の常任幹事会で報告することとなった。

次に、新旧の委員長の引継ぎやオリエンテーションに向けて、委員会運営の標準的な流れや構成員の役割などを紙面にまとめるため、記載内容について確認を行った。

その後、場所を富久屋に移し、懇親会が行われた。

第43回海外経済視察のコースを選定
～第８回交流委員会～

２月17日㈪、事務局会議室において、第８回交流委員会（伊東潤一郎委員長）を開催し委員９名が参加した。委員会では、旅行業者を選定するためのプロポーザルを開催し、２社から提案を受けた。

伊東委員長

欧州及びアジア方面の提案について、10月の訪問地の気候条件や、効率的でストレスのない行程・スケジュールか、アクセスが良く快適な設備を有するホテルか、料金は妥当か等の観点から、委員全員が熱心にプレゼンテーションを聞き、質疑を行い、その後、意見交換を行った。

そして、昨年、国交樹立100周年を迎え、日本からの直行便が就航するなど、緊密な二国間関係にあり、観光・都市計画等で学ぶ点が多いこと、異なる国を移動する時間的・費用的ロスを省く観点からトルコ１か国を巡るコースを選び、また、より安価な概算見積額を提示した旅行業者を選定することになった。

中沖担当役員

提言に向けて
― 第５回人財活躍委員会 ―

第５回人財活躍委員会（森弘吉委員長）を、１月20日㈪、ホテルグランテラス富山で開催し、委員24名が参加した。

森委員長より２年間の人財活躍委員会として活動した３つのテーマ（女性活躍、外国人材の活用、兼業副業）に関する取組みや、提言案について説明を行い、参加した委員に忌憚のない意見を求めた。出席した委員からは、自身の企業で抱えている課題などを例に挙げ、目指すべき方向性が共有され、活発な意見交換の場となった。

森委員長

インドをもっと身近に
― 第６回人財活躍委員会 ―

第６回人財活躍委員会（森弘吉委員長）を２月26日㈬、インテックビルで開催し、22名の会員と富山県などからオブザーバーとして12名が参加した。

講演会には全日本空輸株式会社 インド総代表兼デリー支店長の片桐常弥氏をお招きし「インドをもっと身近に」と題してご講演いただいた。

片桐 常弥 氏

片桐氏はまず、インド経済の情勢や動向、日本との関係についてデータに基づき説明した。「インドは有望な投資先としての期待は高いものの、実際に進出するには慎重な企業が多いのが現状である。一方、インドに進出している企業の黒字化率は近年上昇しており、ビジネス環境が改善している」と述べた。また、「インドは平均年齢28歳と若く、世界一の人口を誇り、豊富な若年労働者を有している。特に北東部の７州は日本人に近い気質を持つ人材が多く、高い語学力を持つので日本語習得能力も高い」と説明した。

森委員長

日本側のインドに対する理解不足や、送り出し機関の未成熟などの課題があるため、片桐氏はインド、日本双方の国で情報の発信に努めており、これまでの講演実績や、受け入れ企業の事例が紹介された。

講演後にも活発な質疑がなされ、参加者にとってインドへの理解をより一層深める貴重な機会となった。

TOPICS

富山の企業を知ろう！
～とやま企業見学バスツアー～

留学生にも県内企業を知ってもらい就職に繋げることを目的に、富山大学と協働で２月18日㈫に外国人留学生向けの企業見学会を実施した。当日は雪の降る寒い天候にもかかわらず、10名の留学生が参加し、会員企業である十全化学㈱、㈱ジェック経営コンサルタント、NiX JAPAN㈱の３社を訪問した。

各企業英語による企業紹介や業務内容の説明が行われ、参加者は熱心に聞き入った。説明後には会社内を見学し、働く現場の雰囲気や業務内容を直接目にすることで、県内企業への理解を深めた。

アメリカ大統領選の結果から第２期トランプ政権を読み解く
― 第８回企業経営委員会（拡大委員会）―

第８回企業経営委員会拡大委員会（高木悦郎委員長）を２月12日㈬、オークスカナルパークホテル富山で開催し、会員約90名が参加した。

今回は、㈱三井物産戦略研究所特別顧問の緋田順氏をお招きし、「2024年大統領選結果と第２期トランプ政権の政策予測」と題し講演いただいた。

緋田 順 氏

最初に、昨年行われたアメリカ大統領選挙を振り返り、トランプ氏の勝因を「インフレの高止まり」「不法移民増加」「メディアへの不信」などにあると分析し、各要素についてデータに基づきながら解説した。また、言論の自由の重要性を掲げ、情報統制に反発し、これまで民主党を支持していた人物がトランプ支持に転じた点も大きな追い風になったと述べた。

トランプ氏について、リベラル系メディアによる偏向報道も相変わらず散見されるため、「彼の発言を文字通り受け止めるのではなく、実際の行動を見ておくべき」など側近から聞いたトランプ評についても紹介した。安全保障については「力による平和の実現」を重視し、「狂人理論」に従い予測不可能な言動を交渉の武器にしていると解説した。さらに、政権の閣僚人事について、政策を確実に実行するために忠誠心を重視した人材を登用し、政策立案より実行力を重視した布陣にしているとした。矢継ぎ早の大統領令は、「Promise Made, Promise Kept」という有言実行を体現しているものと述べた。

日米関係については、アメリカ国内では日本への関心が薄いものの、中国への反発が強まる中で日本は反射的利益を得ている格好になっているが、今後、日本自身が積極的に発信し存在感を高めていかなければ日米同盟の実効性は永続的に担保されないと警鐘を鳴らした。加えて、経済政策ではトランプ流の保護主義が一層強まり、高関税を通じたアメリカ国内産業の保護が進められる可能性があるため、日本企業も対米投資まで視野に入れ、アメリカ政治・社会・経済動向を注視してゆく必要があるとまとめた。

緋田氏の臨場感にも溢れた圧倒的情報量と深い洞察に基づく講演を通じて、アメリカの現状とその影響について理解を深める、大変貴重な機会となった。

SDGs 11 住み続けられるまちづくりを

提言案をブラッシュアップ

― 第７回地域創生委員会 ―

１月27日㈪、オークスカナルパークホテル富山において第７回地域創生委員会（池田治郎委員長）を開催。委員54名が出席し、提言案について意見交換を行った。

最初に、池田委員長が提言案について説明。２年間の委員会活動を踏まえ、現状分析や事例調査の結果からまとめたものであるとして、委員に意見を求めた。

委員からは、課題認識や提言の方向性への賛同と併せ、更なる内容の充実・精査に向け盛り込むべき視点等について、忌憚のない意見が挙げられた。

池田委員長

SDGs 11 住み続けられるまちづくりを

経済人が文化・スポーツの奨励に関わる意味とは

― 第10回文化スポーツ委員会 ―

１月23日㈭、インテックビルにおいて第10回文化スポーツ委員会（武内孝憲委員長）を開催。委員37名が参加し、これまでの２年間の委員会活動を振り返った。

武内委員長は開会の挨拶で「あと３回の活動で委員会活動は終了する。本日は、これまでの委員会活動を振り返り、各回がどんな意味を持っていたかを皆さんと共有したい。そして３月末には委員会として、２年間の活動で何をメッセージとして残すべきかを報告書としてまとめたい。これまで多くの委員の方々にご参加をいただき、感謝申し上げる」と述べた。西田美樹副委員長、酒井郁生副委員長、河内肇副委員長、西能淳副委員長が委員会報告を行った。最後に武内委員長は、これまで掲げていたテーマ「経済人が文化・スポーツの奨励に関わる必要がどこにあるのか」「文化・スポーツのまちづくりの重要性」「私たちが理解し行動を率先していくことの意味がどこにあるのか」について、ChatGPT に尋ねた答えとして「企業が文化に投資することは、その土地の価値を高めること。文化は短期的な利益を生むものではないが、長期的には地域住民の満足度や人口定着率、観光収入など、幅広い分野でポジティブな影響を与える。また文化支援を通じて企業が地域の顔として認識されることは、ブランドのイメージの向上や社員の誇りにもつながる」と紹介し、経済人が文化に関わる意味について出席した委員らと共有し、会を締めくくった。

武内委員長

西田副委員長

酒井副委員長

河内副委員長

西能副委員長

歓喜に沸いた今期最後の「同友会の日」
― 富山グラウジーズ応援 ―

２月16日㈰、文化スポーツ委員会（武内孝憲委員長）は富山市総合体育館において地元プロスポーツチームを応援する「同友会の日」を開催し、富山グラウジーズ対鹿児島レブナイズの試合を観戦した。麦野代表幹事、牧田代表幹事、大橋副代表幹事をはじめ、会員・会員企業の従業員やその家族合わせて96名が参加した。この日は、黒部市・入善町・朝日町民デーが開催され、3,518名の観客が試合を見守った。前日は、残り一秒で逆転負けをしたこともあり、試合は前半から冷静にそしてしっかり戦い、最後の10分間、鹿児島が粘りを見せて反撃に出るも、富山もシュートを決める展開。29得点のホワイト選手を筆頭に、バランスよく攻撃した富山が89－82と振り切り勝利し、連敗を４で止めた。職場の同僚や家族で観戦した参加者は、シュートが決まると同友会オリジナル応援うちわを振り上げ大いに盛り上がった。

今年度も地域プロスポーツを応援する「同友会の日」にご参加いただきありがとうございました。

子どもたちの音楽は宝物
―「同友会の日」文化 ver. ―

２月23日㈰、文化スポーツ委員会（武内孝憲委員長）はオーバード・ホール中ホールにおいて、「同友会の日」文化バージョンとして、富山ジュニアオーケストラ＆コーラス第１回目の演奏会を鑑賞した。会員及び会員企業の従業員やその家族合わせて27名が参加した。当オーケストラは、県内演奏家の協力を得て、一般社団法人として、2023年10月に設立され、現在、小学１年生から高校３年生までを対象に75名が活動している。開演に先立ち、富山ジュニアオーケストラ代表理事の大田和樹氏は「今日がスタート。オーケストラに入りたかった子どもたちが月２回の練習を行っている。コーラス100名、オーケストラ100名を目指している。富山の子どもたちの音楽は宝物。是非、皆様のご支援を賜りたい」と挨拶。コーラス部門を指導する中沖いく子氏は、「子供たちの歌声は未来そのもの。音楽を楽しめるよう指導していきたい」と話した。第１部では、コーラスで「夜明けの詩」他４曲が披露され、第２部では、オーケストラによる「くるみ割り人形より花のワルツ」他２曲が演奏された。アンコールでは、同友会が制作に関わった富山県ふるさとの歌「ふるさとの空」が演奏された。子どもたちの元気な歌声に、600名収容の中ホールの客席から惜しみない拍手が送られた。

アンコールで「ふるさとの空」を合唱

SDGs
4 質の高い教育をみんなに　8 働きがいも経済成長も

想いを伝えるには
～スケッチオーデション2024－25～

●スケッチオーデションとは・・・

富山経済同友会（アントレプレナーシップ小委員会）、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学が共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテスト。

最大の特徴はコンテスト本番ではなく、新たな事業を志す挑戦者とメンターによる「仲間と学びあい支えあう」事をコンセプトとして、2025年３月16日㈰の決勝大会に向けてビジネスプランの考え方のインプットと、アイデアをブラッシュアップする過程を重視した珍しいイベントであり、今回が５回目の開催。

プログラムの総合プロデューサーは昨年に引き続き冨田 欣和氏（神戸大学　客員教授）が務め、講師には過去大会参加者や決勝大会の審査委員が行う予定である。

参加者とメンターを募集したところ、今回は総勢85名（挑戦者68名、メンター17名）と過去最多の申込みがあった。また、14歳の中学生から60代まで幅広い層が参加している。

今回はDay５（１月25日）、Day６（２月８日）を実施し、ラーニングフェーズからデザインフェーズに移り、プレゼンテーションの予選・決勝大会に向けた実践的な講義が行われた。

● Day５〔１月25日㈯〕

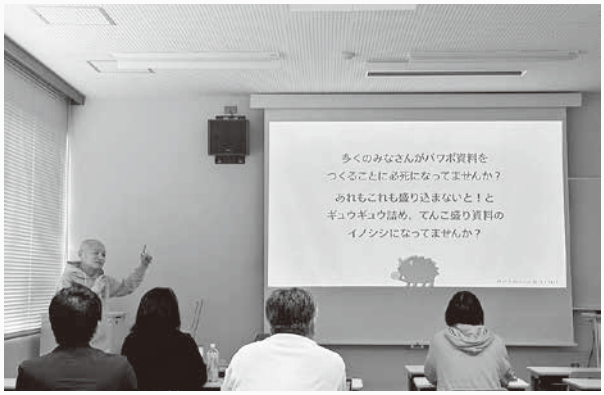
Day５となる本日は、富山大学芸術文化学部の岡本和久教授が登壇。国内外の広告デザインに携わり、現在はデザイナーを目指す学生の指導をしている経験から「想いを伝える」をテーマにわかりやすく講義を行った。

成功するプレゼンには、情報を整理する「交通整理」と、相手を巻き込む「ストーリー」が不可欠であり、情報が散漫であると伝わらないので、情報を絞ってストーリーに沿った内容を展開することで、受け手に強い印象を残すことが出来る、プレゼンの際にはゴールイメージを明確にし、具体的な課題と解決策を示すことが重要になると訴えかけた。

また、伝えたいことを効果的に伝えるためには、単なる事実ではなく、相手が「なるほどね」と共感する発見を提供することが大切であると述べ、事例として双眼鏡を宣伝する際には「遠くが見える」という当たり前のことではく、「孫とおじいちゃんの会話が増える」といった商品の持つ本質的な価値を、受け手の視点に立ってアプローチすることで新しい価値を提示し、心を動かせると説明した。

さらに、コピーライティングでは、「何を言うか」だけでなく、「どう言うか」が重要であると説き、単語をそのまま使うのではなく、相手に感じさせる表現を選ぶことが重要であるので、視点を変え心に響くメッセージを作り出してほしいと伝えた。

最後に、プレゼンでは最も言いたいことを１点に絞ることがカギとなり、情報を詰込みすぎると、伝えたいことがぼやけてしまう。必要なことだけを示し、あえて手の内をすべて晒さないことも効果的であり、受け手の興味を引きつけ、行動を促すことが、成功につながると述べ講演を締めくくった。



● Day 6 〔2月8日㈯〕

講義フェーズの最終回であるDay 6には、決勝大会の審査員を務める4名を招いて参加者を巻き込んでディスカッションを実施した。その中で、アントレプレナーシップの本質や挑戦する姿勢について語られ、大会の審査基準にある「問いのイノベーティブさ」「アントレプレナーシップ」「持続可能性」について各人の経験を交えながら意見を述べた。

アントレプレナーシップとは、単に起業することに限らず、自ら課題を見つけ、主体的に行動し、解決に向けて一歩踏み出す精神であり、会社員であっても学生であっても同じである。重要なのは、誰かに言われてやるのではなく、自分の意思で取り組むことであると述べた。

また、起業を決意した際や、競合相手との圧倒的な差を感じた時、自身の無力さに直面し、しり込みしてしまった際の対処について質問が挙がり、「逃げないこと」と「逃げ道を作ること」のバランスが重要であり、ただ立ち止まるのではなく、自分にとってベストな方法で次の一歩を踏み出すことが大切であると意見が挙がった。

さらに、競合相手がいる時の心構えについては、相手と同じことをするのではなく、自分だから出来るアプローチを見つけることが重要である、独自の視点や経験、人脈などの自分にしかない強みを活かすことが成功に繋がると述べられた。

これらの言葉は、挑戦者のみならずメンターにも共感できるものとなり、審査員のこれまでの経験に基づく発言に感銘を受けた。

TOPICS

富山の活力の源を探る
～長崎経済同友会との交流～

2月19日㈬、長崎経済同友会の鈴木茂之副代表幹事、企画総務委員会の方々等19名が来県され、松月での懇親会に、麦野英順・牧田和樹代表幹事をはじめ、交流委員会（伊東潤一郎委員長）委員ら8名が参加した。

長崎では百年に一度と称される大型プロジェクトが進行する一方、人口減少に歯止めがかからない状況から、地域経済に活気があり上場企業が多い富山から学び、活動に役立てようと、2泊3日の行程で来訪され、富山市民プラザ及び朝日印刷㈱の視察の後、当会との懇親会となった。

麦野代表幹事

懇親会では、長崎経済同友会の鈴木副代表幹事から開会の挨拶があり、麦野英順代表幹事が「この冬一番の寒さの中、ようこそ富山へ。一昨年の全国セミナーでお世話になり、皆さんの来県を心から歓迎するとともに懇親が益々深まることを祈念する」と乾杯ご挨拶の後、和やかに懇談が始まり、一昨年の全国セミナー長崎大会に当会から多数会員が参加したことなどに話が弾んだ。

終わりに、牧田和樹代表幹事が「長崎も富山もサッカー、バスケットのプロスポーツチームを有し、リーグ対戦が見込まれる。今回の来県を機に相互の交流に発展することを期待している」と中締めの挨拶がなされ盛会のうちに懇親会は閉じられた。

牧田代表幹事

SDGs
4 質の高い教育をみんなに

― 課外授業講師派遣 ―

第11回　黒部市立石田小学校

1月20日㈪、横山栄一郎氏（横山冷菓㈱代表取締役）が黒部市立石田小学校において、6学年26名に対し「アイス屋のおやじが伝えたいこと」と題して課外授業を行った。

横山代表は工場で着用するつなぎ・マスク姿で教室に入り、児童の関心をひきつけた。

はじめに自己紹介として、自身も石田小学校出身であることや、毎日食べているほどアイスクリームが好きで、子どもの頃からアイス屋になることが夢であったことなどを話した。アイスクリームの製造から店頭に並ぶまでの工程を説明するとともに、自社製品について児童に問いかけながら紹介した。また、アイスクリーム業界について、人口減少が進む中でも市場が拡大し続けていることなどを述べた。

続けて、社長就任時に企業理念を「私たちはアイスクリームを通じて幸せを提供します」に変更したことに触れ、幸せの形はそれぞれ違うが、従業員や顧客、地域の方々の幸せを叶えられる会社でありたいという想いを熱く語った。「アイス屋になりたい」という夢は、アイス屋の社長になることがゴールではなく、誰かの役に立つことができたり、幸せにできるようになったりすることで本当の意味で達成されると自身の考えを述べた。

横山 栄一郎 氏

最後に、「今の学校生活やこれからの経験がすべて将来に繋がる。勉強や習い事など、今できることに一生懸命取り組むことは、選択肢を増やすことに繋がり、将来の幅が広がることは幸せなことだと思う。かけがえのない今を大事にしてほしい」と母校の児童にメッセージを送るとともに、自社のアイスクリームをサプライズで配り、児童を喜ばせた。

第12回　砺波市立庄川中学校

2月28日㈮、碓井一平氏（㈱就活ラジオ代表取締役）が砺波市立庄川中学校において、3学年34名に対し「どんな社会にも負けない人生をめざして」と題して課外授業を行った。

碓井代表は、キャリア教育の一環として母校で講演した際に「自分が何をできるかわからない」「社会に対して希望がない」といった後輩たちの悩みを聞いたことをきっかけに、自分も何かやらなければと奮起し、継いでいた会社を辞めて“学生と社会が繋がることができるような会社を作りたい”と起業した経緯を紹介した。「やりたいことが見つかったらすぐに行動し、お金や時間がなくても、それが上手くいってもいかなくても、すべてが楽しく充実していた」と、自身の経験を述べた。

そして、海外に住んだ経験があったり、自分用のパソコンを持っていたりと同じ制服を着て同じ学校に通う生徒間でも、個人を取り巻く環境は異なることに触れ、「残酷かもしれないが、“世の中は平等ではない”という事実を受け止め、今自分が置かれている状況を理解したうえで、どのような選択をするかということが今後の人生を左右する。様々な経験を積み、社会で戦えるだけのスキルを身に付けなければならない。スキルを身に付けるには、あれこれ考えずやってみるチャレンジ精神が必要であり、そこに失敗はない」と語った。

碓井 一平 氏

最後に、「環境が人をつくる。与えられたものを享受するだけでなく、自分で選ぶこともできる。自分で自分の可能性に蓋をすることなく、自らの意思で行動し、努力を重ねることが重要。他人のものさしで自分をはからず、自分のものさしを見つけてほしい」とメッセージを送り講演を締めくくった。

リレーエッセイ㉔

今、富山が熱い！面白い！

太　田　俊　也
（三井物産株式会社）

昨年４月に富山に赴任、あっと言う間に１年が経ちました。

生まれ育った石川県を離れて約40年ぶりの北陸生活。子供の頃には、となみチューリップフェアを訪れたり、黒部峡谷でトロッコ電車に乗ったり、そして極楽坂や牛岳でスキーをしたりと、楽しい思い出は沢山ありますが、富山に住むのは今回が初めて。元々北陸人とはいえ、お隣の石川県出身ですし、知人の居ない初めての土地で、正直最初は少し戸惑いや不安もありましたが、富山経済同友会の様々な活動を通じて多くの方々とお知り合いになることが出来、お蔭様で公私ともに大変充実した富山生活を送っています（皆さん､いつも有難うございます！）。

人生初の単身赴任を経験し、恥ずかしながら、これまで全くやってこなかった自炊も始めてみました。直ぐに挫けるだろうと自分でも思っていましたが、意外や意外、自分好みの味の料理が出来た時の嬉しさやそれが出来ない時の悔しさからのリベンジもあり、なんだかんだで半年以上続いています。と言っても、鍋とか炒め物とか簡単なものばかりですが。買い物に始まり、最後の皿洗いまで時間も掛かりますし、結構大変なのですね。今更ながら、妻に感謝しなければ、と思っている今日この頃です。「気付くの遅っ！」と言われそうですが（笑）。

富山での生活は、本当に便利で快適です。食べ物もお酒も美味しくて、ゴルフ場も近いですし、下手な私もついつい気軽にプレーしてしまうくらいです。大変恵まれた環境を有難く思いつつも、富山に「もう少し賑わいがあれば、もっと良いのになぁ」と、言うのが最初の率直な印象でした。

そんな中、昨年10月の富山グラウジーズのB.LEAGUE PREMIER参入決定、12月にはカターレ富山のＪ２昇格と、立て続けのビッグニュース。両チームそれぞれのホームゲームを観戦したとき、ブースターやサポーターの熱い声援と選手の必死のプレーが織りなす一体感や熱気、その迫力や臨場感は格別でした。

今年１月に、米ニューヨークタイムズ紙の「2025年に行くべき52か所」に選ばれたことは、富山市民の私（１年目の新人ですが）にも大変嬉しいサプライズでした。ガラス美術館には昨年GWに家族と一緒に行きましたが、展示品はどれもこれも素敵で目を奪われるものばかり。「おわら風の盆」を鑑賞させて頂く機会にも恵まれ、胡弓が奏でるノスタルジックな旋律に合わせた幻想的で情緒溢れる踊りは、心に染み入る感動的なものでした。

２月には、富山市が１世帯当たりのすしの年間支出額全国１位になったとの発表。「寿司といえば、富山」､「すしのまち　とやま」の住民の私も、天然のいけす富山湾のお寿司は勿論大好きですし、東京や大阪からの出張者からもいつも大好評です。気のせいか、冬の出張者が多いような（笑）。

スポーツが盛り上がり、文化・芸術、そして食の魅力が国内外に大きく取り上げられ、注目を集める富山が今､熱い！と感じています。「もう少し賑わいがあれば」と当初思っていたのは、余計な心配だったようですね。知れば知るほど、住めば住むほど、富山が面白くなってきました。

２年目となるこの４月からは、仕事でもプライベートでも、これまで以上に富山ライフをエンジョイしつつ、富山を応援し、富山の発展に少しでもお役に立てるよう精一杯頑張りたいと思います！

（次号は全日本空輸株式会社　富山支店長の須田直樹　様です。）

活 動 報 告

1月1日～2月28日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内　　容	出席者
1月15日㈬ 11：30～13：00 富山電気ビルデイング	新年幹事会・富山県知事との昼食会	65名
1月27日㈪ 17：00～20：10 オークスカナルパーク ホテル富山	1月会員定例会（地域創生委員会主管） 講師：福島国際研究教育機構 理事長　山崎 光悦 氏 演題：「福島国際研究教育機構の創造的復興への挑戦」	約100名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内　　容	出席者
1月15日㈬ 17：00～20：15 事務局会議室	地域創生委員会 第9回正副委員長会議	・提言（案）について	7名
1月20日㈪ 17：00～19：40 ホテルグランテラス 富山	第5回人財活躍委員会	・提言（案）について	26名
1月23日㈭ 17：00～19：40 インテックビル	第10回文化スポーツ 委員会	・これまでの活動報告 ・今後の予定について	37名
1月27日㈪ 16：00～16：40 オークスカナルパーク ホテル富山	第7回地域創生委員会	・提言（案）について	54名
1月30日㈭ 15：30～20：00 事務局会議室	第6回企画委員会・ 第7回委員長連絡会議 （合同会議）	・委員会編成の方向性について ・委員会運営について	12名
2月4日㈫ 11：30～13：00 事務局会議室	教育問題委員会 第6回正副委員長会議	・提言（案）について ・「教師と企業人との交流」次年度継続開催について	8名
2月12日㈬ 17：00～20：10 オークスカナルパーク ホテル富山	第8回企業経営委員会 （拡大委員会）	講師：㈱三井物産戦略研究所 特別顧問　緋田 順 氏 演題：「2024年大統領選結果と第2期トランプ政権の政策予測」	約90名
2月17日㈪ 15：00～17：00 事務局会議室	第8回交流委員会	・旅行業者による来年度海外経済視察についてのプレゼンテーション	9名
2月19日㈬ 18：00～20：00 磯料理　松月	交流委員会	長崎経済同友会との交流	8名
2月26日㈬ 17：00～20：15 インテックビル	第6回人財活躍委員会	講師：全日本空輸㈱ デリー支店長兼インド総代表 片桐 常弥 氏 演題：「インドをもっと身近に」	22名

○課外授業講師派遣・教育講演講師派遣

開催日時	学 校 等	対　象	講　師
1月20日(月)	黒部市立石田小学校	6学年　26名	横山 栄一郎 氏
2月28日(金)	砺波市立庄川中学校	3学年　34名	碓井 一平 氏

○その他派遣

開催日	派 遣 先	場　所	出席者
1月23日(木)	第3回　地域の教育を考えるワークショップ	【高岡学区】 高岡文化ホール	北村 耕作 氏
			津嶋 春秋 氏
1月24日(金)		【富山学区】 富山県民会館	稲葉 伸一 氏
			土屋 誠 氏
1月29日(水)		【砺波学区】 TONAMI 翔凜館	上田 信和 氏
			川合 声一 氏
1月31日(金)		【新川学区】 新川文化ホール	伊東 潤一郎 氏
			杉野 岳 氏

○その他の会合

開催日	内　　容	場　所	出席者
1月6日(月)	5経済団体合同「新春互礼会」	ANA クラウン プラザホテル富山	38名
1月12日(日)	（公社）富山青年会議所 2025年度新年祝賀会	ANA クラウン プラザホテル富山	牧田代表幹事
1月23日(木)	第3回とやまスタートアップ戦略会議	オンライン	麦野代表幹事
1月31日(金)	第1回富山県総合計画審議会	ANA クラウン プラザホテル富山	麦野代表幹事
2月16日(日)	同友会の日 「富山グラウジーズ」観戦	富山市総合体育館	98名
2月21日(金)	とやまスタートアップエコシステム サミット	ボルファート とやま	麦野代表幹事
2月23日(日)	同友会の日文化バージョン 「富山ジュニアオーケストラ＆コーラス」 鑑賞会	オーバード・ ホール中ホール	27名

会員の入退会

（1月幹事会）

1．最近思うこと
　（社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど）
2．生活信条（座右の銘等）
3．趣味

入　会

青山和也（あおやまかずや）
㈱エクシーズ
代表取締役
（紹介者：大橋聡司氏）

1．AIやRPAなどで便利になる一方、豊かさが失われつつあると感じます。業務を通じて心が豊かになる仕組みやサービスを提供できればと思っています。
2．日頃から調和を大切にしています。
3．ゴルフ

山海満也（さんかいみつや）
アルスホーム㈱
代表取締役社長
（紹介者：土屋誠氏）

1．企業理念ES＝CSの実践に努めて参ります。社員一人一人が幸福感に満たされ、且つ、やりがいを実感できる会社を目指しています。
2．自分が人からされて嬉しかった事をすすんで他の人にしてあげるように心掛けています。
3．ジム通い・旅行

松島和美（まつしまかずみ）
㈱ほっとすたっふ
代表取締役
（再入会）

1．弊社制作のテレビCMが個性的だと好評をいただいていますので、若い人のセンスを大切に企業のリクルートやブランディングにお役に立てるようにしたいと思います。
2．何に対しても誠実に一緒懸命取り組むこと。
3．茶道（裏千家）・サウナ・テニス・ゴルフ

交　代

近藤浩之（こんどうひろゆき）
新菱冷熱工業㈱
北陸支店長
（前：戸口正幸氏）

1．「さわやかな世界をつくる」理念のもと、省エネ技術や環境負荷低減に取り組み、持続可能な社会に貢献します。
2．気遣いは心、気働きは力
3．ドライブ・スポーツ観戦・食べ歩き

杉山 圭一郎（すぎやま けいいちろう）
富山新聞社
代表
（前：吉田仁氏）

1．政治、経済、文化、スポーツなどあらゆる「富山の森羅万象」について客観的、建設的な報道を心掛け、地域の繁栄に貢献する新聞でありたいと思っています。
2．現場第一。人との出会いは財産。
3．サイクリング・今年はゴルフ挑戦が目標

藤村 洋志（ふじむら ひろし）
㈱商工組合中央金庫
富山支店長 兼 高岡支店長
（前：柏木二郎氏）

1．金融機関の立場から地域経済を支える上で必要なこと、求められていることをしっかりキャッチアップし、俯瞰的、多面的に捉え取り組むことを常に考えています。
2．不撓不屈
3．ゴルフ・自転車

宮城 大季（みやぎ だいき）
㈱G&G ホールディングス
常務取締役
（前：中尾健太氏）

1．地域経済の活性化と人材の可能性を広げるため、DX 推進と雇用創出に尽力する。
2．「Give & Give」見返りを求めず与え続けることで、巡り巡って返ってくる
3．サウナ・ポーカー・将棋・ゴルフ

村尾 英彦（むらお ひでひこ）
㈱村尾地研
代表取締役社長
（前：村尾于尹氏）

1．難しい世の中において, 社業を発展させるための学びを得たいと思い経済同友会に入会させて頂きました。今後は、会員の方々から学ばさせて頂きたいと思っています。
2．晴れてよし　曇りてもよし　富士の山
もとの姿は　変わらざりけり
3．ゴルフ

退　会

浅野　端　アルコット㈱　代表取締役社長
山本昌樹　㈲やまもと　代表取締役
渡邉清隆　㈱富山市場輸送　代表取締役

（令和７年１月15日現在　**会員数435名**）

今後の予定

開催日	対　象	行　　事	場　所
4月9日㈬	幹事以上	4月幹事会	オークスカナルパーク ホテル富山
4月17日㈭ ～18日㈮	全会員	第37回全国経済同友会セミナー （広島経済同友会主管）	広島県広島市内
4月24日㈭	全会員	2025年度定時総会・懇親会	ANA クラウンプラザ ホテル富山
6月13日㈮	正副代表幹事 交流委員会委員	第6回全国立山大使の会 （県外在住の当会会員 OB・OG 会）	はま作 （日本橋とやま館）
6月28日㈯	あけぼの会会員	第88回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
7月24日㈭	幹事以上	7月幹事会	ホテルグランテラス富山
7月24日㈭	全会員	7月会員定例会 講師：兵庫県立芸術文化観光専門職大学学長 劇作家・演出家　平田 オリザ 氏	ホテルグランテラス富山
9月13日㈯	あけぼの会会員	第89回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
9月26日㈮	正副代表幹事 交流委員会委員	第33回経済同友会中央日本地区会議	新潟県新潟市

TOPICS

県議会議長からの要請を受ける
― 地方議会議員の立候補環境の整備について ―

1月15日㈬、全国都道府県議会議長会会長の山本徹富山県議会議長から、麦野英順代表幹事と牧田和樹代表幹事に地方議会議員の立候補環境の整備に係る要請活動があった。

山本県議会議長から両代表幹事に要請書が手交され、女性や若者等の多様な人材が地方議会に参画し住民に開かれた地方議会の実現に向けて、企業に対して立候補に伴う休暇制度を設けることや議員との副業・兼業を可能とすること等の協力を求めるものであり、当会会員への周知について要請がなされた。

〔表紙写真〕

長崎経済同友会との交流

2月19日㈬10年に一度の寒波の中、長崎経済同友会が来訪。

写真は、「磯料理 松月」で撮影した懇親会での集合写真。

発　　行　　所
富山経済同友会
富山市牛島新町5番5号　インテックビル4階
電　　話（076）444―0660
F　A　X（076）444―0661
e-mail:doyukai@po.hitwave.or.jp
https : //www.doyukai.org/

わが青春の1枚

現場の懇親会にて

仲間入りの洗礼!?

株式会社 MGG　取締役社長　　牧 田 和 樹

大学院を修了し日本道路公団に奉職しました。最大手土木コンサルに内定していたのですが、家業がバレ断念せざるを得ず、教授から「もう国家公務員になるしかない」と。修論も佳境を迎え、7月の一次試験まで6ヶ月、国家Ⅰ種（上級）には時間が足りないが、公団上級ならいけるか、という状況でした。

本社での研修を経て、当時最北端の旭川工事事務所で、3つの土工現場と1つの鋼上部工現場を抱えていた深川東工事区に配属され、スーパーゼネコンJV請負と鋼上部工単独請負の担当になりました。公団の理屈では、院の期間は実務経験にカウントされるようで、給料も含め大卒3年目と同じ扱いでした。とはいえ、実務経験ゼロなのでスーパーゼネコンなら面倒みてくれるだろうと。工事事務所では初の修士だったようで、良い意味でも悪い意味でも、周囲から好奇の目で見られていました。

基本的業務は、現場の進捗が設計図書や工程通りであるかをチェックすることで、必然、現場へ足を運ぶことが多く、現場の方々との信頼関係構築が重要なカギでした。ところが修士の看板は、現場では異端感ありありで気軽に話もしてもらえない中、ある洗礼を受けることになったのです。

先輩からは業者さんが全部やってくれるから、といわれていた現場での初検査で、測量機器が水平に据え付けられていなかったのです。それに気づいて仕方なく自らの手で据え付け直した途端、周囲から「おっ！」という声が漏れたのです。頭でっかちな修士のメッキでも剥がしてやるか、といった感じだったのでしょう。この瞬間、現場の方々から技術者として認められたのだと実感しました。

それ以降は、現場事務所で昼をご馳走になったり、懇親会に誘っていただいたりと、文字通り、現場の仲間として接していただきました。お陰で、蛇紋岩という厄介な地層を切る難工事も、業者さんと力を合わせ何とか工期内に完成させることができました。

信頼関係を築くには、下地材そのものの価値が大切で、メッキ仕上げだけでは誤魔化せないのだと、還暦を過ぎた今でも変わらず、自身の処世の心棒になっています。